

株式会社ホテルオークラ東京 代表取締役社長 梅原 真次さん(83年営卒)

本学卒業後、株式会社ホテルオークラに入社。Hotel Okura Amsterdam B.V.への赴任やオークラプレステージ台北の開業準備室長、総支配人、株式会社ホテルオークラスペースソリューションズの取締役、The Okura Tokyoの総支配人などを歴任し、2022年6月、代表取締役社長に就任。



現在とこれまでのお仕事について教えてください。

今年の6月よりホテルオークラ東京で代表取締役社長を務めています。具体的な仕事としては、社長就任前に総支配人を務めておりまして、ホテルにおけるサービス品質の管理といった総支配人業務を後任に引き継ぎつつ、宴席受注のお礼や挨拶回りといった営業活動をしていることが多いですね。過去にはオランダの阿姆斯特ダムや台湾での勤務、当ホテルの建替え時のプロジェクトマネージャーも務めました。「ホテルオークラ」を象徴するメインロビーを、開業時と変わらない姿で再現しようと奔走した事は印象的です。

このお仕事を選んだきっかけについてお聞かせください。

もともと母の実家が旅館を営んでいまして、

各業界でトップランナーとして活躍する先輩に、学生記者がインタビュー。今回は、今年6月にホテルオークラ東京の代表取締役社長に就任された、梅原真次さんにお話を伺いました。

小さい頃からその様子を見てサービス業に興味を抱いておりました。身体を動かして働く仕事をしたいとも思っていましたしね。しかし大学生の時にホテルオークラでアルバイトをして、都会で多くの人と交流できるホテル業が、自分の理想と合っていると感じ、自分にとっての軸となりました。4年生の時に短期留学でイギリスへ行ったことも大きかったです。海外勤務や、海外の方と交流できるホテル業への憧れも強まりましたし、海外のホテルにも触れる良い経験になりました。

ただ、ホテルマンとしての仕事をずっと目標にしていたので、総支配人を務めたり、ましてや社長になるとは全然考えていませんでしたね。

お仕事で大切にしていること、スタッフに求めることを教えてください。

サービス業ではまず、「ありがとう」の言葉に喜びを感じられることが何より大切です。従業員自身が幸せでないとお客さまの笑顔も引き出せません。また、お客様に満足していただけるサービスを提供するには、一緒に働く仲間はもちろん、モノや仕事にも感謝と思いやりを持っていくべきです。どんな仕事でも、人と人のつながりの中でお互いに助け合う「和」の精神が欠かせません。すべてのことに感謝と思いやりをもって笑顔で働くからこそ、最高のサービスが提供できると考えます。

学生時代を振り返って、やっておいてよかったと思うことは何でしょうか？

まず語学の勉強ですね。英語はもちろんですが、当ホテルの場合、東アジアのお客様も多いので中国語も重宝します。私自身、学生時代にもっと勉強しておくべきだったと思うことがあります。お客様とお話しする機会も多いので、筆記試験の成績や技術的なことより、いわゆる社会常識のような、円滑なコミュニケーションができるスキルの方が役立ちます。当ホテルでも獨協大学の卒業生が何人も働いてくれています。コミュニケーションに長けているスタッフが多いため、学生の皆さんもぜひその部分を伸ばして欲しいですね。

あとは幅広い経験です。学生のうちによく遊び、よく遊んでほしいと思います。勉強や部活動、サークル活動など、なんでも興味のあることを追求していくこと。これがいつかきっと役に立ちます。どうか充実した学生生活を送り、将来への糧にしてください。



メッセージ 学生の皆さんへ

① 社会人になると勉強する時間はない、今の時間を大切にしてしっかりとよく勉強しよう。

② よく勉強するだけでなくよく遊ぶのも大切。遊びの経験がコミュニケーションを成長させる。

(英語学科2年)

海外でも、国内でもホテルでサービス業を経験したことを伺い、私もたくさん語学を学んで、将来の仕事に生かしたいと思いました。人やモノにも思いやりを持って行動することが円滑なコミュニケーションに繋がると知り、実践しようと思いました。



(総合政策学科3年)

お客様や関わる人など相手の立場に立って物事を考える能力が、今後社会で活躍する上で不可欠だと実感しました。そのために、大学の内外で様々な体験をする事で、更に自分の視野を広げられるようにしようと思いました。



学生記者